



水産クラブ 2年連続で優良賞を受賞！ ～「マリンバイオプラスチック II」～

10月29日（木）、函館にて開催された第36回北海道高等学校水産クラブ研究発表大会に本校を代表し、3年生の坂本翔君と2年生の泉谷一貴君が参加してきました。発表テーマは「マリンバイオプラスチック II」です。

きれいな海で百万羽の海鳥が躍る天売島も、海岸線をよく見ると木材やプラスチック製品などたくさんの漂着物があります。また、海鳥の胃袋には高い割合でプラスチック片が入っていることが、近年明らかになっています。天売島の観光業につながる景観や海鳥を守る目的で、水産実習の際に出るタコの皮から抽出したゼラチンを原料に、土に還るプラスチックの合成を試みました。合成したものを成型して作った釣り用のワームが、土に還るか観察するとともに、実際に釣りをして市販のものと比較しました。その結果、微生物に分解されて土に還り、市販のワームと同等に釣れることが証明されました。

代表の2人は昨年から継続して行ったこの研究成果を精一杯発表し、4校10チーム中2位に相当する優良賞を2年連続で受賞することができました。参加した2年生の泉谷一貴【いずみやかずき】君は、「間違えなくてよかった。」と当番校である函館水産高校新聞部の取材に答えていました。



水産実習「スモークサーモン」 ～うまく味付けできました～



10月17日（土）に、天売学の一環として水産実習「スモークサーモン」が行われました。燻製づくりは、5月の赤ガレイ、6月のタコに続いて今年3回目。材料はベニザケを使用し、すべて手づくりです。

作り方はまず、マキリを使い、うろこをきれいに取り除き、三枚におろして洗浄します。続けて、調味料（塩、ローリエ、香辛料等）とともに樽に一日漬け込んだ後、網に

広げて乾燥と燻煙の作業を5日間前後交互に繰り返します。今年は天気の良い日が多く乾燥が順調に進んだため、10月22日（木）に予定どおり最終作業である真空パック詰めが終了しました。

生徒全員が昨年も経験しており、自分から率先して作業を行い、手際良くサケをさばく姿は大変頼もしいものでした。実習を終えて、3年生の萬谷佳帆【よろずやかほ】さんは「今回もうまく味付けできたので、食べてくれた人に喜んでもらえると思います。」と感想を綴っていました。



第2回 算数・数学教室

「ぐるぐるカレンダー、面白かった！」



11月8日（土）、9日（日）の2日間の日程で、今年度2回目となる算数・数学教室を行いました。1日目は小学生2名、中学生3名、大人1名の計6名を対象に、計算などの数を扱う問題を中心に取り組みました。2日目は小学生3名、中学生4名、大人1名の計8名を対象に、1日目の残りの部分と、面積など図形に関する問題を中心に取り組みました。

「500mlの缶の胴回りと縦の長さではどちらが長い？」や「石取りゲーム必勝法をペアで考える」など実際に物を使って考える活動も取り入れました。

受講生からは、「授業ではやらなかったことがくわしくわかっておもしろかった」「ぐるぐるカレンダーをつくるのが面白かった」といった感想が聞かれ、とても有意義な時間となりました。



水産実習 「さけチップ」

11月9日（月）、10日（火）に、今年度最後の水産実習となるさけチップづくりを行いました。さけチップは、サケ



水煮缶と隔年で交互に製作していますが、突然の大雪に見舞われ作業所の移動に大変な思いをした一昨年の経験を踏まえ、今年は実施日を少し早めました。

材料は地元産のシロザケを20匹使用し、生徒全員で協力して処理し、味付けを行いました。前回の実習から2回連続で鮭を扱っていることもあり、



生徒はとても手際よくきれいな切身を作っていました。その後1週間ほど風乾・燻乾を繰り返し、約5mm幅に薄くスライスし、パック詰めをして完成です。

2年生の野上千利君は「サケが硬くて薄く切るのが少し難しかったが、美味しいさけチップに仕上がりました。いい経験になりました。」と話し、最初で最後のさけチップづくりを終えて充実した様子だった。

生活体験発表全道大会 「勇往邁進」特別賞受賞

10月20日（火）、札幌市教育文化会館で第59回高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会が実施されました。空知地区からは2年連続で天売高校の生徒が全道大会に出場し、今年度は3年生の坂本翔君が「勇往邁



進（ゆうおうまいしん）」という題で発表をしました。尊敬する父や兄たちと同じく天売高校で働きながら学んで

3年目、将来は暮らすのには不便だけれど大好きな天売島を活性化させるために地元の公務員になりたいという迷いのない決心を述べ、特別賞を受賞しました。それぞれの苦難を乗り越え、人生を切り拓こうとする出場者の前向きな発表は、会場で聞く人々の心を打ち、感動を与えました。



図書紹介

富 樫 霞九磨 (商業教諭)



書名：『トータル・リコール』 著者：フィリップ・K・ディック

シュワルツネッガーが主役を演じた映画『トータル・リコール』を含むSF作品の短編集です。火星旅行を熱望する主人公が、存在しない記憶を作ってくれるリコール社を訪ねるのですが、彼の脳には既に火星に行った記憶があり、その記憶が消されていたことが発覚します。主人公は嘘の記憶か本当の記憶か分からないまま、映画とは違ったユーモラスな展開をたどることになります。

他にも、映画化された『マイノリティ・リポート』など奇妙な世界観を持つ作品が多数収録されているため、おすすめの作品です。